綠掬すべきもの有るのみ。部落は相距る一里内外に點在すれば、遠く之を見るときは一簇の蒼蔭も猶ほ連綿たる長森林の觀あり。是等平原或は臺地は、總て畑地ならざるは無く、土質は黃色深層の粘土より成りて、臺地若くは丘阜は、概ね階段を爲せり。要するに鄭州附近は、一望茫漠の大平野なるが、氾水の南方に虎牢山脈蜿蜒たるが、故に該地附近は起伏多く、有名なる嶮隘の地とす、其の虎牢關あるもの豈偶然ならんや。

虎牢城趾は、關の南側に存す。關を出づれば起伏次第に減じ、遂に洛陽の平原と爲り、新安に及んで始めて狹隘と爲り、其迫る所(即ち新安の東)に函谷關あり。而して以西は地形一變、小波狀地を爲し、北は黃河に限られ、南は秦嶺の山脈に續きて、一坡又一坡、坡間往々細流を通ずるも、其の間に一の峻坂あること無し。

本道は黃河に並行して、殆んど東西に貫通し、幅約三米突有餘、概ね平坦なりと雖も大部は兩側絕壁の凹道を成し、毎年雨期には川と變じ、路面其の都度洗滌せられて、凹度愈〻增大するもの〻如く、晴天には黃塵萬丈白日を籠め、雨後には泥濘深く脛を沒し、十數日を經ざれば舊態に復し難きも、幸に路外の通過概ね容易なるを以